

東ティモール（2023 年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在東ティモール日本国大使館](#)

1. 2021 年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2021 年度日本語教育機関調査結果

機関数	教師数	学習者数								
		合計	初等教育		中等教育		高等教育		その他教育機関	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
4	16	417	0	0.0%	0	0.0%	100	24.0%	317	76.0%

（注）2021 年度日本語教育機関調査は、2021 年 9 月～2022 年 6 月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

2003 年にラファエラ基金でカトリック系の中村葉子シスターが日本語の指導を始めた。2016 年には東ティモール国立大学で非正規の日本語コースが開講され、2018 年から 2020 年の間に学校教育以外で 3 団体が日本語講座を開講した。

2020 年 3 月 28 日に東ティモール政府は新型コロナウイルス蔓延防止の非常事態宣言を発令。それに伴い、東ティモール国立大学を含む全日本語教室が一時閉鎖された。2021 年 11 月末の非常事態宣言解除後、2022 年初頭から日本語の授業は徐々に再開されるも、日本語学習者数は以前に比べ低い水準にとどまっている。

背景

2003 年に始まった日本語教育は、多文化教育、当地日本人との交流、留学準備などを目的としていた。2023 年に東ティモールから日本への技能実習生送り出しが開始されたことで、日本語学習への興味が高まっている。

特徴

学校教育では日本語教育は行われておらず、民間の日本語講座で学生・社会人などが日本語を学んでいる。

最新動向

2024 年 3 月現在、3 団体（ケサディップ・ルアク・センター（CQR）、YMCA 東ティモール、みらいサト）での日本語教育コース開講が大使館に報告されている。日本語指導は主に在留邦人及び日本留学・滞在経験のある東ティモール人が行っており、2022 年 12 月に YMCA 東ティモール主催の日本の歌・朗読コンテスト（国際交流基金助成）が実施された。2023 年に東ティモールから日本への技能実習生送り出しが始まったことから、日本での就労を目的とした日本語学習者が多い。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

東ティモール国立大学で 2016 年から日本語講座実施。経済学部観光学科の学生が対象で、主に観光業界へ就職希望の学生達が、日本人観光客への接客対応、また日本への留学希望などのため受講した。当大学では、日本留学経験のある東ティモール人講師 2 名が、初級・中級コースをそれぞれ担当。同コースは特別科目（履修単位対象外）であり、コロナによる緊急事態宣言解除後に、一時開講したものの現在休講中である。

学校教育以外（3 団体）

1 ケサディップ・ルアク・センター（CQR）

2018 年 9 月開講。日本語初級・中級コースが開設され、当地に長く滞在する日本人講師と日本で研修経験のある東ティモール人講師の指導のもと、青少年が日本語を学んでいる。

2 YMCA 東ティモール

2019 年 2 月開講。日本に留学経験のある東ティモール人講師を含む 3 名が日本語コースをボランティアで指導。現在約 60 名の青少年が日本語を学んでいる。

3 みらいサト・チロマル（スアイ県）及びディリ

インドネシアとの県境に近いスアイ県で 2020 年 7 月開講。日本人が Zoom で大人向けに週 2 回授業を行う他、東ティモール人講師が地域の小中学生約 20 名に設立者の自宅で日本語を教えている。2023 年 10 月にディ

リ校を開校。62名の生徒が3名のボランティア講師から日本語を学んでいる。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

初等教育6年（6～11歳）及び前期中等教育3年間（12～14歳）の9年間が義務教育修了後、後期中等教育3年（15～17歳）の9-3制。公立の初等・中等教育機関（後期中等教育機関を含む）での教育は無償。

高等教育は、首都ディリに集中しており、唯一の国立大学である東ティモール国立大学、及び私立大学の計19校（ディリ大学、平和大学、ディリ工科大学、ベタノ技術大学、カトリック教育大学、東ティモール・コーヒー大学など）がある。

教育行政

2018年より、教育省が二分された。初等・中等教育は「教育省」、高等教育は「高等教育・科学・文化省」の管轄となっている。

言語事情

公用語は、現地語テトゥン語とポルトガル語。その他、インドネシア語も使用されている。

東ティモールには、公用語のテトゥン語のほかに30以上の地方語（マカサエ語、マンバイ語、ケマック語など）が存在する。ポルトガル語は公用語とされているが、法律、政府における公文書や会議を除き、日常生活では殆ど使用されていない。

学校での教授言語は、初等教育低学年ではテトゥン語が中心、4年生からテトゥン語にはない単語を補助する形で徐々にポルトガル語に移行していく。

当地の教育省には多くのポルトガル語系（ポルトガル人、ブラジル人）外国人がアドバイザーとして勤務しており、当国からポルトガルに留学する東ティモール政府職員も多い。さらに、労働者派遣制度のある豪州や韓国などでの就労を目的とし、英語や韓国語などの学習者も増えている。

現在の教員はインドネシア統治時代（1976 - 2002）に教育を受けていた世代で、ポルトガル語で作成されている教科書が理解できない教員が多く、十分な指導を受けられない児童・生徒の学力低下が問題となっている。

4.学習環境

教材

高等教育

『みんなの日本語（初級）』（スリー・エー・ネットワーク）
（ただし、2023年から休講中）

学校教育以外

『できる日本語』（アルク）

『みんなの日本語（初級）』（スリー・エー・ネットワーク）

『Lian Japones-Tetun』（Julian Nunes Jose 著）

『Loro Loro ! Lingua Japaun』（Julian Nunes Jose 著 国際交流基金助成により出版）

5.教師

資格要件

初等・中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

日本語教師の資格について、特に規定はない。

教師研修

現職の日本語教師対象の研修は確認されていない。

6.教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

日本語教育関係のネットワークは確認されていない。

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICA からの派遣は行われていない。

その他からの派遣

なし

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

9. 評価・試験

評価・試験の種類

共通の評価基準や試験は確認されていない。

10. 日本語教育略史

2003 年	ラファエラ募金がディリ市内ベボヌク地区で日本語教室を開講
2016 年 10 月	東ティモール国立大学（UNTL）経済学部観光学科（ディリ学舎）で日本語コースを開講（非正規コース：Non Degree）
2018 年 9 月	ケサディップ・ルアク・センター（CQR）がディリ市内コルメラ地区で日本語教室を開講
2018 年 11 月	第 1 回 日本語スピーチ・コンテスト開催 （於：東ティモール国立大学）
2019 年 2 月	YMCA 東ティモールがディリ市内タシトル地区で日本語教室を開講
2019 年 11 月	第 2 回 日本語スピーチ・コンテスト開催 （於：東ティモール国立大学）
2020 年 7 月	「みらいサト」がスアイ県チロマル地区で日本語教室を開講
2020 年 11 月	第一回 日本語コンテスト開催（於：みらいサト）
2020 年 12 月	第一回 日本の歌・朗読コンテスト開催 （於：YMCA 東ティモール）
2021 年 9 月	第二回 日本語朗読コンテスト開催 （於：みらいサト）
2022 年 3 月	第二回 日本の歌・朗読コンテスト開催 （於：YMCA 東ティモール）
2022 年 7 月	第三回 日本の歌・朗読コンテスト開催 （於：みらいサト）
2022 年 12 月	第三回 日本の歌・朗読コンテスト開催

2023 年 4 月

(於：YMCA 東ティモール)

東ティモール国立大学での日本語コース休講

2023 年 10 月

みらいサト ディリ校開校